

行政視察報告書

| | |
|------|--|
| 委員会名 | 建設産業委員会 |
| 派遣委員 | 委員長 内藤 康弘 副委員長 武生 博明 委員 平川 幸司 委員 芝田 英範 委員 奥田富美子 委員 牧 宣雄 |
| 日程 | 令和5年10月25日(水) 14:00~16:30 |
| 視察先 | 兵庫県丹波篠山市 |
| 調査項目 | ユネスコ創造都市ネットワークの取組について |

1. 調査目的

丹波篠山市は平成27年12月に、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト&フォークアート分野に加盟が決定しました。丹波篠山市は、美しい町並みや景観、伝統文化、自然環境などの魅力があり、都市化に走らず、農村文化や伝統産業を守り続け、農村風景や地域コミュニティ、日常の生活文化がもっている「創造性」に光をあてたまちづくりを進めています。また、農林業・工芸・建築・祭礼などの先人たちの技術に、新しい知恵を重ねて受け継がれてきたことを「創造産業」とし、これをさらに発展させる取組も行っています。

丹波篠山市がユネスコ創造都市として取り組む「創造性」に光をあてたまちづくり及び「創造産業」を発展させる取組について調査し、白杵市が食文化創造都市として進めている取組の参考とすることを目的に行いました。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

丹波篠山市は兵庫県の中東部に位置し、人口は39,662人(令和5年9月末現在)、総面積は377.59平方キロメートル。東は京都府、西・北は丹波市・加東市、南は大阪府・三田市などに隣接しています。舞鶴若狭自動車道の開通やJR福知山線の複線化によって、関西経済圏の大阪・神戸からの時間的距離が大幅に短縮され、1時間圏域となりました。

丹波篠山市には、江戸時代の民謡を起源とし、地域のその時代ごとの風土や人情、名所、名産品が歌い継がれている「デカンショ節」や縄文時代から続き、世界に誇る日本古来の技術を継承している「日本六古窯」の一つである丹波焼といった伝統文化・産業があり、これらは日本遺産として登録されています。

このような伝統文化・産業を継承・発展させることにより文化的価値を発信することや創造都市との交流による文化の維持向上と世界の都市への文化的な貢献を目指して、ユネスコ創造都市ネットワークに申請しました。「デカンショ節」や「丹波焼」といった暮らしの中にある文化や産業を育み、それらを地域づくりに活かしてきたことや、地方の小規模都市ならではの創造性や取組が評価され、平成27年12月に日本国内では、石川県金沢市に次いで2番目の都市としてユネスコ創造都市ネットワークの「クラフト&フォークアート」分野に認定・加盟されました。

(2) 調査結果

丹波篠山市は加盟から10年近く経ちますが、ユネスコ創造都市ネットワークに加盟していることを知らない市民の方も多くいるようです。創造都市としての事業を市民へ情報発信しづらいという難しさがあり、市民の機運を高めることについては本市と同様に、課題と感じている部分の一つであるとのこと。これらを解消するために、市内の伝統的な町屋が残る地区を舞台に、現代アートなどを展示する「ビエンナーレ」という催しや、工芸・美術・食文化といった各分野で活動している地元作家の展覧会を中心とした街歩きとショッピングを楽しめ、様々な作品と出会える新しいイベントの開催を支援する取組を行っています。

また、丹波焼をはじめとする市内産の食器類を用いて、丹波篠山市の食材を活用した料理で観光客などをもてなすことを推進するため、市内産食器類の購入経費の一部を補助する「食と器の出会い事業補助金」といった事業も行っています。

3. 委員会の所感

本市が今後も創造都市として成熟していくためには、まずは地元の産物や伝統を市民が理解し大切に守り抜いていく必要があると感じました。そのためには生産者や飲食店といった食文化を支える事業への継続した支援が必要だと考えます。また、市民の機運をこれまで以上に高めていくような取組も必要だと感じた。本市には「白杵祇園祭り」、「石仏火まつり」、「うすき竹宵」そして「吉四六まつり」といった他に誇れる代表的な催しがあります。それに匹敵するようなイベントを行うことも市民への機運を高めることや創造都市として対外的にアピールする手段にもなるのではないかと感じました。

4. 視察状況

